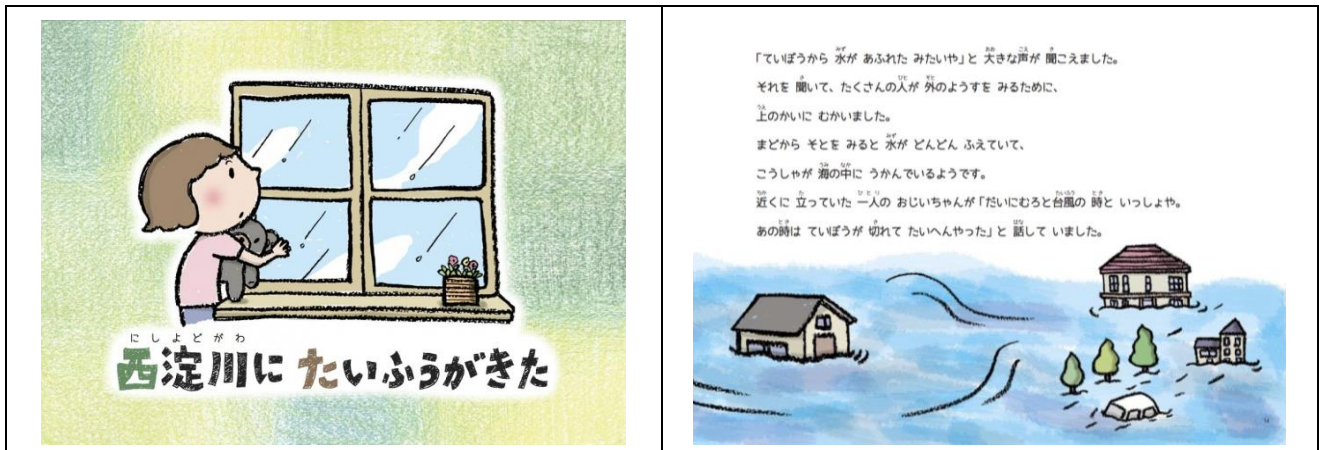


平成 27 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	公益財団法人 公害地域再生センター
活動テーマ	高齢者の災害記憶の収集と活用



生活の中に防災を取り入れよう

にしよどがわ防災まちづくり通信 VOL.4

災害を「まれに起こる不幸」と考えようと、案外ではないとおびえながら暮らすことになってしまいます。そうではなく、いつでも起こりうる「生活の一部」として考えと、普段から備えることができるのではないのでしょうか？

たとえば、普段から子どもも含めて顔がわかる近所さんがいれば、災害が起こった時に子どもも安心して任せられることができます。他に、キャンプなどの野外活動の体験も被災時に生かすことができます。

さらに、災害時には、高齢者や障害者などの支援を必要としている人もたくさんいます。自分の身を守ることで、他の人のことを助けられることもできます。自分だけでなく周りの人も助けて、「みんなで守る！みんなで助かる！」防災を生活の中に取り入れましょう。

あおぞら財団とは

西淀川大気汚染公害対策(1978～1998年)の総集の一環を継いで立ち上げられたまちづくり組織。まちづくり・資料館・地域学習・公害被害の相談・防災交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

〒595-0023 大阪府西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル  
TEL:06-6456-2800 FAX:06-6456-2801 E-MAIL: info@aozora.or.jp  
所在地:あおぞら(日本学術振興会 特別研究員  
募集)の調査員(人)と調査員(センター)が所属)

発行日:2016年3月  
発行元:あおぞら財団



西淀川区は、過去から繰り返し大きな水害に見舞われてきたが、過去の水害の記憶の継承は行われていない。本活動では、地域から失われつつある災害の記憶を元に防災教材を作成し、災害の記憶を若い世代に引き継ぎ、地域の防災力を高めることを目的としました。

この活動では、防災教材として、防災絵本と副教材を作成しました。絵本では、子どもたちに災害を伝えていくために、子どもが一人である場合に水害が発生したという内容のものとなりました。また、副読本は、親子で防災に取り組むことができるように、防災に対する意識付け、普段から防災に対して取り組んでおくことなどを記述しました。防災教材として絵本を作成するにあたり、指導者がいなくても子どもが学ぶことができるような教材とすること、災害に対する考えが固定化されないようにとるべき行動をパターン化して教えるのではなく、考え方を学べるような教材とすることに留意しました。

さらに、作成した絵本を活用して絵本の読み聞かせ会を行いました。読み聞かせをすることにより、子どもが絵本に集中することができ、小さい子どもでも理解ができたようです。その後の話し合いにより、参加者は家庭での防災の大切さを感じてもらえたことがわかりました。また、西淀川区内の子どもがいる家庭では、こうした防災教育に対するニーズが高いこともわかりました。

今後は、作成した防災絵本および副読本を用いて、教育プログラムを作成し、子どもたちに伝えていく取り組みを行っていきたいと思います。